

<健康チーム>

【児童生徒の実態】

- ・全体的に体力向上に対する意欲が低く、運動への関心において男女差がある。また、種目によっても児童生徒の意欲の高さに差が見られる。
- ・立腰指導は定着してきたが、授業中やタブレット使用時の姿勢に問題がある。
- ・朝食を食べる児童の割合は高いが、内容に関して課題のある児童生徒がみられる。また、食べてこない理由には、生活リズムの乱れによる児童生徒が多い。
- ・体育の授業では容易にけがをしまったり、遅刻が多かったりする児童生徒が見られる。

【部会のねらい】

- ・体育での安全指導や身体の使い方、体力向上について、小中の発達段階に応じた指導を行う。
- ・朝食摂取の充実と身体作りの意識の向上を図る。
- ・基本的な生活習慣を身に付けさせる。

| 視点 | <A> 教育課程の 工夫改善 | 教育活動の 連続性の確保 | <C> 教職員間の 連続・協働 | <D> 家庭・地域との 連携・協力 |
|----|----------------------|------------------------|-----------------------|-------------------------|
|----|----------------------|------------------------|-----------------------|-------------------------|

| | |
|----|--|
| 取組 | ①けがの予防のために、3校統一して取り組むための「二中学区体操」の運用 ②姿勢指導(立腰、授業中、タブレット使用時)の継続、各校の学校保健給食委員会への参加 ③朝ごはん毎日食べよう週間の実施、朝食アンケートでの実態把握、朝食欠食児童生徒への個別指導 ④5月、11月「からだWEEK」の実施、外遊びの奨励 ⑤二中学生による体力向上献立の作成 |
| 成果 | ①二中学区体操により、中学校入学後もギャップなく、保健体育の授業に臨むことができた。 ②立腰指導により、姿勢に対する児童の意識が高まった。「立腰」の一言で姿勢が整うことができるようになった。学校保健委員会に児童生徒が参加することで、参加者の意欲が高まり、活発な話し合いが行われるようになった。そこで出た意見をからだWEEKに生かすこともできた。 ③朝ごはん毎日食べよう週間の実施や朝食アンケートを継続的に行うことで、児童生徒の意識のみならず、保護者への啓発にもつながった。朝食欠食児童生徒を把握することで、児童生徒理解が深まった。 ④「からだWEEK」の実施により、運動への興味関心を高めることができた。外遊びや運動の機会が増え、運動の楽しさや心地よさを実感することができ、運動することのよさにも気が付くことができた。 ⑤二中学生による体力向上献立の作成では、紹介動画を見せることで、児童の給食への意識が高まり、積極的に食べることにつながった。 |
| 課題 | ・けがや遅刻が多いことから、日頃の運動や生活習慣の見直しが必要だと感じた。体育、保健、給食の3つの視点からさらに自分の生活に生かせるような活動にしていくことが求められる。 ・朝ごはん毎日食べよう週間やからだWEEKなど、小中で同じ期間で行えるとさらによりよい活動になる。 ・給食センター化へ向けて、指導計画や資料等の統一が必要。 ・姿勢を長時間保つことが難しい。 ・タブレットの使用頻度が増えているため、ICT機器使用時の姿勢指導が必要。学校だけでなく、家庭への啓発も重要になってくる。 ・それぞれに行っている週間の項目の統一が必要。 |



二中学区体操



体力向上コーナー



委員会による企画